

# ベストミックス社会 実現のための骨子(案)

## ②健康で快適な国民生活と元気で豊かな地域の実現

気候変動に順応した多様な農業活動の展開や、熱中症・感染症の未然防止、生活パターン変化に対応した省エネルギー方策や新産業創出など、国民生活に直結する気候変動の影響を緩和し、豊かで快適な国民生活の維持、増進を図る。低炭素・影響適応型生活を可能にする公共交通モビリティの改善、土地・既存施設の有効活用を行い、活力の維持と低炭素・影響適応型生活の両立を可能にする地域づくりを進める。

対策を牽引する  
科学技術例

- ・イネゲム研究の成果活用による高温・乾燥・塩害等に耐性の作物の開発
- ・野菜工場、干ばつ対策など食糧自給率向上のための技術開発
- ・感染症の早期発見や予防、熱中症対策の技術開発
- ・高性能の断熱や防水・防湿を実現する新材料の開発
- ・地産地消など多面的効果のある地域モデルの構想
- ・地域政策立案に資する将来人口やライフスタイル変化予測技術 等

野菜工場のイメージ



出典: 植物工場普及振興会HP

熱を伝えにくい複層ガラス



出典: 社団法人  
日本建材・住宅設備産業協会

人と環境にやさしい先進的な交通まちづくり



出典: COCN HP(フォーラム2007 豊田市長 鈴木氏資料)

# ベストミックス社会 実現のための骨子(案)

## ③国民一人ひとりが行動できる環境づくり

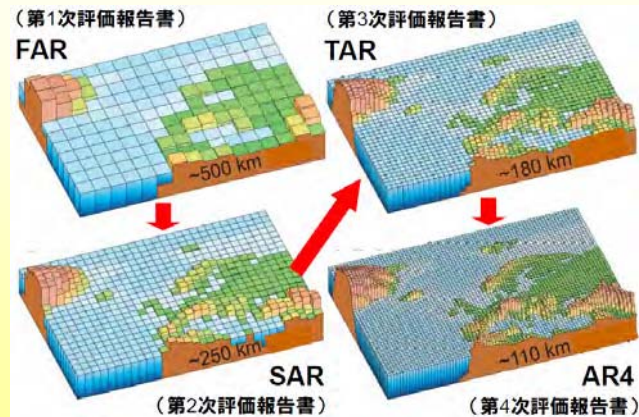
災害から自らを守る、食糧事情を知り賢い消費行動をする、地域ぐるみで熱中症・感染症を予防するなど、国民一人ひとりが気候変動に適応し、先手を打って行動することを支援する環境、基盤づくりを行う。

対策を牽引する  
科学技術例

- ・地域レベルで気候変動・影響予測を可能とするシステムの構築
- ・食の安全モニタリングツールの開発
- ・適応行動支援GISの開発
- ・人文社会科学が連携した「気候適応学」の発展

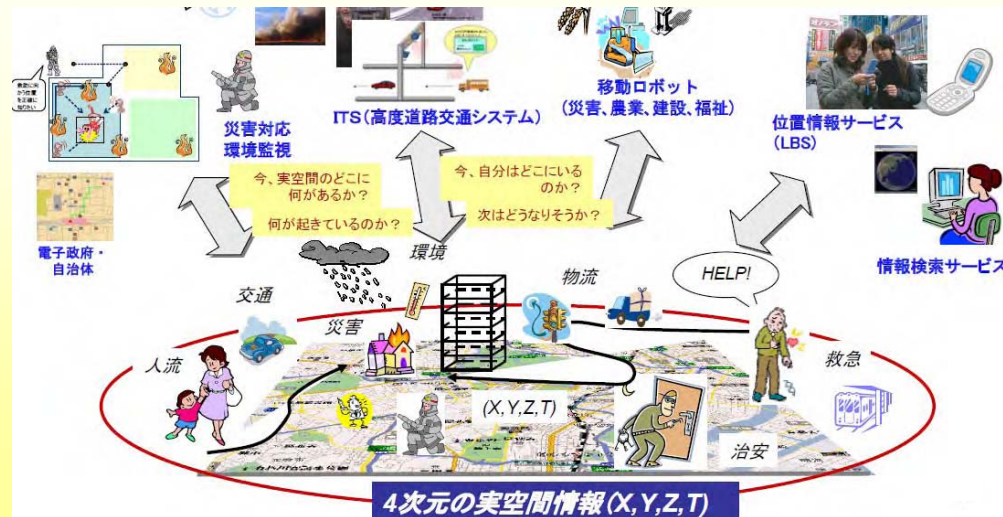
等

IPCC報告書が用いた気候モデルの解像度  
~FAR、SAR、TAR、AR4~



出典: IPCC第4次評価報告書 統合報告書 概要(公式版)

行動支援GIS(地理空間情報活用)のイメージ



出典: 東京大学 柴崎教授

# ベストミックス社会 実現のための骨子(案)

## ④ベストミックス社会形成のための国際連帯

適応と緩和は一体となって機能するため、ベストミックス社会の構築は緩和策同様、世界全体で取り組むべき課題。適応のための科学技術を共有することにより、発展途上地域を含めた国際社会全体の気候変動への対処を推進、加速する。また、自治体の連帯、NPO/NGO間の協働、バーチャル空間を通じた市民間の国際理解と連携を推進する事により、国際的な適応連帯を育む。

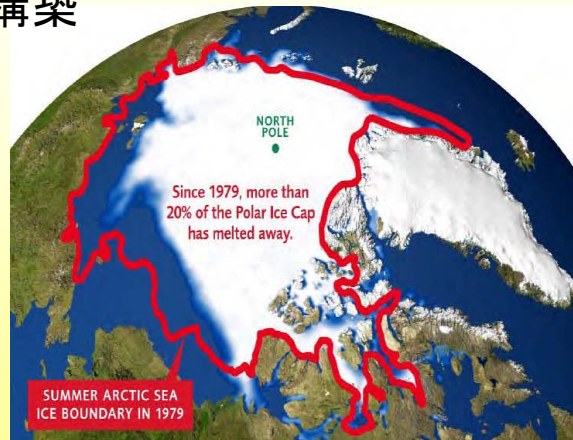
対策を牽引する  
科学技術例

- ・メガデルタ地域などと連携した、社会基盤施設の気候変動適応技術の構築
- ・わが国気候変動予測・適応技術の他地域への適用支援
- ・バーチャルコミュニティ技術を活用した適応のための国際市民ネットワークの構築

干ばつのイメージ



出典: University Corporation for Atmospheric Research



温暖化の進行による北極海の海水の融解

出典: ICIA, 2004

護岸のイメージ



出典: JICA (2001) Annual Evaluation Report

(別紙) 気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性の立案イメージ

～緩和策と適応策のベストミックス社会を目指して～

【タスク】  
途上国支援のあり方の検討。

目指すべき社会像を探る。  
・ベストミックスによる社会とは。  
・地域政策における適応策の推進方策とは。

【タスク】  
モデルプロジェクトの立案とロードマップの作成。

【タスク】  
目指すべき気候変動予測のための技術の方向性立案。

気候変動予測技術（観測及びモデル）の現状と研究開発動向を知る。

連関

連関

【タスク】  
目指すべき適応策実現のための技術の方向性立案。

気候変動の影響と適応策の概要を知る。  
（生態系、水資源、食糧、沿岸域と低平地、産業、健康など）

連関